施策評価シート（令和７年度　実績）　　【行政評価】施策３

【総合計画】

| | |
|---|---|
| 重点的方針 | 気候変動対策による持続可能なまちづくり |
| 概要 | 地球規模の環境問題が深刻化する中、町民一人ひとりが「地球規模で考えて、足元から取り組む」意識の向上と行動の変容に向け、様々なパートナーシップのもとで取り組みます。<br>「脱炭素社会」や「循環型社会」の実現、生物多様性の保全などの各取り組みに際し、従来から取り組んできた町民・事業者・町による協働の促進だけでなく、未来を担う子どもたちを巻き込んだ二宮らしい体験型の環境教育・保全活動を充実させます。<br>また、公共施設の新築、更新にあたっては、再生可能エネルギーへの切り替えや省エネ施設の導入について、積極的に推進していきます。<br>これらの緩和策に加え、気候変動に伴う影響から生命や暮らしを守るため、豪雨を起因とする災害に対応する都市基盤の維持・強化や新たな感染症対策など、国や県との連携も強化しながら適応策を進めます。 |

【総合戦略】

| 関連する総合戦略の基本目標 | |
|---|---|
| － | |

| 関連する総合戦略に位置付けた施策 | |
|---|---|
| 施策番号 | 施策名 |
| 施策１-３ | 豊かな環境の保全と気候変動対策の充実 |

| No. | 関連する主な予算等事業 | 戦略該当 | トータルコスト（千円） | | | | 庁内評価（２次評価） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R5 | R6 | R7 | R8 | R5 | R6 | R7 | R8 |
| 1 | 環境保全推進事業（環境学習、地球温暖化防止運動の推進等） | ○ | 5,766 | 4,600 | 6,212 | | 適当・要改善 | 適当・拡大 | 適当・維持 | |
| 2 | ごみ減量化・再利用事業 | ○ | 10,459 | 10,664 | 9,971 | | 適当・拡大 | 適当・維持 | 適当・維持 | |
| 3 | 道路維持管理経費 | ○ | 157,997 | 195,952 | 139,114 | | 適当・維持 | 適当・維持 | 適当・維持 | |
| 4 | 管路建設改良費 | ○ | 181,698 | 261,726 | 195,894 | | 良好・維持 | 良好・維持 | 良好・維持 | |
| 5 | 防災施設維持管理経費 | | 11,185 | 11,235 | 24,936 | | 適当・維持 | 適当・維持 | 適当・維持 | |
| 6 | 救急救助活動経費 | | 11,065 | 16,450 | 16,118 | | 良好・維持 | 良好・維持 | 良好・維持 | |
| 7 | 美化推進事業（530キャンペーンの実施等） | ○ | 2,115 | 2,424 | 2,546 | | 適当・維持 | 適当・維持 | 適当・維持 | |
| － | その他 | | 1,105,936 | 1,338,778 | 1,455,626 | | | | | |
| 合計 | | | 1,486,221 | 1,841,829 | 1,850,417 | 0 | | | | |

※達成状況：A　達成（100%以上）、B　概ね達成（70%以上）、C　充分とは言えない（50%以上）、D　未達成（50%未満）

| 関係する主な重要業績評価指標（KPI） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 指標名 | | 基準値 | R5 | R6 | R7 | R8 | 達成状況 |
| 環境に関する啓発イベントの実施数 | 計画 | 4 | 3 | 2 | 2 | 2 | A |
| | 実績 | | 3 | 3 | 3 | | |
| 脱炭素社会 に資する環境行動の実践率（%） | 計画 | 40.1 | | | | 51.0 | |
| | 実績 | | | | 40.1 | | |
| 「地球温暖化・気候変動」の認知度(%)【総合戦略】 | 計画 | 89.9 | 91 | 92 | 93 | 94 | B |
| | 実績 | | 74.4 | 86.6 | 86.1 | | |
| 1人1日当たりのごみ排出量(ｇ/人・日) | 計画 | 816 | 807 | 803 | 798 | 798 | A |
| | 実績 | | 768 | 748 | 715 | | |
| 下水道整備面積(ha) | 計画 | 418.6 | 423.5 | 427.8 | 432.1 | 436.4 | B |
| | 実績 | | 423.5 | 426.1 | 427.5 | | |
| 救急隊員の教育研修(訓練)実施数 | 計画 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | A |
| | 実績 | | 16 | 18 | 12 | | |
| 災害別救助マニュアルの整備数 | 計画 | － | 0 | 1 | 1 | 1 | A |
| | 実績 | | 0 | 1 | 1 | | |
| 環境保全活動体験型イベント等の実施回数(回)【総合戦略】 | 計画 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | A |
| | 実績 | | 8 | 8 | 11 | | |
| 省エネ型施設、再生可能エネルギーを導入する施設数(施設)【総合戦略】 | 計画 | 2 | 6 | 8 | 10 | 12 | B |
| | 実績 | | 4 | 6 | 8 | | |
| 町域の温室効果ガス（二酸化炭素）の排出量（t-CO2） | 計画 | 119,000（H25年度） | | | | 79,200（R6年度） | |
| | 実績 | | 90,621（R３年度） | 91,137（R４年度） | 86,421（R５年度） | | |

| | | |
|---|---|---|
| 令和6年度 | 成果 | ・「エコフェスタにのみや」や「ふるさとまつり」において、環境に関する普及啓発活動を実施したほか、子どもを対象として出前授業や環境教室を実施した。<br>・町民・事業者・行政で構成した「にのみや気候市民会議」を開催し、市民提案書をまとめたとともに、「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定、「ゼロカーボンシティ」の表明を行った。<br>・「食品ロス削減月間」に合わせた広報の他、多量排出事業者に対するヒアリング及び指導を実施した。<br>・下水道整備の実績は計画値に届かなかったものの、概ね計画どおりの整備が行えた。<br>・救急救命士5名に対し再教育実習（病院実習）を実施した。医師等による救急活動における事後検証を実施した。<br>・一般住宅等における特殊災害活動マニュアルを作成した。 |
| | 課題等 | ・町民の環境行動を実践に繋げるための啓発の工夫を行うとともに、事業の効果や効率化を検討する必要がある。<br>・地球温暖化対策については、市民提案書等の意見も参考にしながら、計画に基づき具体的な取り組みを検討する。<br>・多量排出事業者への指導等を強化することにより、今後も継続的にさらなるごみ減量化に努めていく必要がある。<br>・道路構造物等については老朽化が進行している状況であるため、安全面を重視しつつ適正な維持管理に努める必要がある。<br>・台風接近時や冬季は情報伝達に困難な状況が見られ、緊急度や重要度に合わせた多重的な情報伝達のあり方を引き続き検討する必要がある。<br>・事業計画区域の94.9%について整備が完了しているが、残りの土地の多くは未利用地や私道であり、土地所有者の意向が整備の実施を左右するため、今後も引き続き土地所有者の下水道に対する理解を求める必要がある。<br>・指導救命士を養成し教育指導体制を充実させる必要がある。 |
| 令和7年度 | 成果 | ・５月の「エコフェスタにのみや」並びに11月の「ふるさとまつり」において、環境PRブースを設置し、普及啓発活動を実施した。<br>・非常事態宣言（令和5年度）、にのみや気候市民会議（令和6年度）までの流れを踏まえ、こども版気候市民会議を開催した。小中学生17名とともに、町の現状や未来の町にできる地球温暖化対策のアイデアについてまとめ、リーフレットや動画を作成し、町内小中学生を中心に幅広い方に情報発信を行った。<br>・一般廃棄物処理基本計画に基づく「家庭系ごみ排出抑制」の一環として、10月の「3R推進月間」に合わせた町広報紙への特集記事掲載を実施したほか、減量化等計画書をもとに多量排出事業者12社への指導・ヒアリングを実施した。<br>・令和７年７月よりリチウム蓄電池の回収を開始し、ごみの適正処理や二次電池の資源化につながった。<br>・下水道整備の実績は計画値に届かなかったものの、概ね計画どおりの整備が行えた。<br>・救急救命士1名養成。指導救命士1名養成。救急救命士6名に対し病院教育実習を実施した。<br>・現場活動における水難救助体制の充実強化を目的に「水難救助マニュアル」を作成した。 |
| | 課題等 | ・引き続き、町民の行動を実践に繋げるための啓発の工夫を行うとともに、費用対効果を意識した環境に関する事業の効率化を検討する必要がある。<br>・地球温暖化対策については、市民提案書やこども版気候市民会議からでたアイデアを基に一部事業を実施できたため、引き続き、地球温暖化対策実行計画に基づき具体的な取り組みを検討する。<br>・道路構造物等（特に舗装）については老朽化が進行している状況であるため、安全面を重視しつつ適正な維持管理に努める必要がある。<br>・事業計画区域に対して95.2%の整備が完了しているが、残りの土地の多くは私道や整備困難地であり、土地所有者や沿線住民の意向や協力が整備の実施を左右するため、今後も引き続き土地所有者等への下水道に対する理解を求める必要がある。<br>・今後も職員の年齢構成等を考慮し、計画的に指導救命士及び救急救命士の養成が必要である。 |

※評価 「Ａ：十分な成果があった」「Ｂ：一定の成果があった」「Ｃ：あまり成果がなかった」「Ｄ：成果が得られなかった」

| 内部評価（評価・理由等） | |
|---|---|
| Ｂ：一定の成果があった | ・こども版気候市民会議では、こどもたちが気候変動を自分事として捉え、地球温暖化対策に関するアイデアをまとめた。また、その内容を町内の各小中学校の児童生徒にリーフレットで情報共有するとともに、一連の取り組みを動画として作成し、分かりやすい情報発信に努め、幅広い世代への環境意識の啓発に繋げられた。<br>・市民提案書等を参考に作成した地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づき、LED照明器具買替補助金により支援を行うことで、基本方針の一つである「省エネルギー化の実現」について具体的に推進できた。<br>・都市基盤の維持について、日々のパトロールや地区要望などにより安全性を優先とした適正な管理を行っており、町民の生活に著しい影響を与える状況にはない。今後も災害への備えや管理不全による事故の発生を予防するため、日々の備えと国・県などの様々な団体との連携強化に努める。<br>・指導救命士養成により、救急隊の教育指導体制の充実が図られ救急業務全般の質の向上が図られた。<br>・海や河川等の水域による救助活動に対し、二次災害防止、要救助者の早期救出を主眼とした体制が整備された。 |